

「令和4年度一関地方育樹祭」の開催について

1 はじめに

令和4年10月1日(土)に一関地方農林業振興協議会・岩手県緑化推進委員会一関地区協議会・岩手県緑化推進委員会平泉支部が主催で、平泉町長島字深山内内の「西行桜の森」を会場に令和4年度一関地方育樹祭が開催されましたので、その主な内容につきまして紹介します。

2 一関地方育樹祭の概要

当日は天候も良く、朝から強い日差しが照り付け、日中は、10月とは思えないほど気温が上昇し、汗ばむくらいの中、9時30分から開会行事が始まりました。

関係市町や森林組合などから約30名の参加の中、平泉町立長島小学校環境委員6年生の2名が声高らかに、「森の息吹を感じよう、森の恵みを届けよう、育てよう豊かな緑と未来の笑顔、自然の再生と緑豊かな未来に願いを込めて」と宣言されました。児童は唯一小学校から参加された2名でしたので、一際注目を浴びながら、開会宣言後に参加者から大きな拍手を受けていました。

主催者挨拶は、一関地方農林業振興協議会会長の佐藤一関市長と開催地を代表して協議会副会長である青木平泉町長からありました。佐藤一関市長からは、「人口減少対策として仕事、人、街づくりが重要、将来学業や就職で市外に出ても、何れ地元に戻ってきて住んでほしい。」と未来の主役である、児童の2名に期待を込めた挨拶がありました。青木平泉町長からは、「西行法師が歌に詠んだ桜を復活させるプロジェクトが

進んでおり、今後も皆さんと育て、森の大切さを理解させたい。」と里山づくりに向けた夢いっぱい挨拶がありました。

挨拶の後、記念植樹、標柱建立では、エドヒガンザクラの苗木2本と標柱を児童と主催者、来賓の鈴木一関農林振興センター所長と阿部一関地方森林組合長の計6名で行いました。児童は、苗木が元気良く育つようお願いを込めながら精一杯植えていました。閉会后、地元のさくらの会と事務局約20名で、エドヒガンザクラの苗木50本を鳥獣被害防止のネットを取り付けながら汗をふきふき植樹しました。



【記念撮影】

3 おわりに

今年度の一関地方育樹祭は、2年前から続いている新型コロナウイルス感染症の被害拡大の影響で、参加人数や行事内容を縮小して開催されました。

来年度は、新型コロナウイルスの影響を受けず、大勢の参加の下、通常に開催されることを願うばかりです。今後も令和5年度岩手県で開催される第73回全国植樹祭の機運を高められるよう、一関管内の山を緑いっぱいにする活動を支援していきます。